

社団法人日本新体操連盟

平成 21 年度第 2 回総会議事録

1. 会議名： 平成 21 年度第 2 回総会
2. 日時： 平成 22 年 3 月 20 日（土）18 時 45 分～19 時 15 分
3. 場所： 東京都渋谷区代々木 2-3-1 「ホテルサンルートプラザ新宿・1 F 芙蓉」
4. 構成員現在数： 568 名
5. 出席会員数： 443 名（うち委任状出席者 427 名）
以下出席会員
With R.G クラブ、大宮ジュニア新体操クラブ、CANDY.M.RG.、グレース、Shaleur R.G、Sweet ピュア R.G、STELLA、ソレイユ、ソレイユRG、東京ジュニア新体操クラブ、フレッシュ新潟 RG、ピュア R. G、HOKUSEI☆R.G.、村上新体操クラブ、R i b b o n 新体操クラブ、リュミエル、
6. 欠席会員数： 125 名
7. 出席役員： 二木 英徳（会 長）石崎 朔子（副 会 長）福本 隆（副 会 長）
荒井 隆（専務理事）関田史保子（常務理事）渡辺 守成（常務理事）
秋山エリカ（理 事）池田真喜子（理 事）岡 久留実（理 事）
橋本 千波（理 事）谷口 裕代（理 事）
上村 郁代（理 事）藤島八重子（理 事）山崎 浩子（理 事）
谷原 誠（理 事）岩本 晃（監 事）田中 元（監 事）
以上 15 名（うち委任状出席 4 名）
その他監事 2 名（うち委任状出席 2 名）
8. 欠席役員： 朝倉 正昭（副 会 長）崇島 慎一（理 事）
以上 2 名
9. 議案：
決議事項
第 1 号議案 平成 22 年度事業計画について（定款第 5,29,38 条関連事項）
第 2 号議案 平成 22 年度収支予算について（定款第 29,38 条関連事項）
第 3 号議案 その他
10. 議事の経過及び結果
 - (1) 議長による開会宣言
（社）日本新体操連盟・定款第 28 条の定めにより議長を会長二木英徳が務め、開会宣言を行った。
 - (2) 議事録署名人の選出
定款第 32 条により、議長は議事録署名人を福本隆副会長と荒井隆専務理事にする事を議場に諮り承認された。
 - (3) 定足数の確認
定款第 30 条により総会出席者数委任状含めて 443 名であることが岡久留実理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。
 - (4) 議決事項
第 1 号議案 平成 22 年度・事業計画について（定款第 5, 29, 38 条関連事項）
議長は説明者として石崎朔子副会長を指名し、石崎副会長は下記内容の説明を行った。

1. 平成 22 年度年間事業計画について

昨年 9 月に三重県で「世界新体操選手権」が開催されたため、毎年開催していた「世界新体操クラブ選手権」を平成 21 年度は休止したが、本年 22 年度は 10 月に「世界新体操クラブ選手権」を再開し、それに伴い「日本新体操祭」も「世界新体操クラブ選手権」と同時開催する平成 20 年度と同様の開催スケジュールを採用する。

その他スケジュールはほぼ例年通りを予定している。

2. 第 19 回全日本新体操クラブ選手権について

「第 19 回クラブ選手権」を 8 月 29 日から 31 日にかけて「東京体育館」にて開催する。出場年齢、種目等は 21 年度同様とする。変更点は「世界新体操クラブ選手権」が再開するのに伴い、「世界クラブ選手権」への出場権が復活する。出場権の内容は前回開催時同様 1 部リーグ上位 3 チームとする。

3. 第 10 回全日本新体操クラブ団体選手権について

「第 10 回団体選手権」を 9 月 11 日 12 日に「東京体育館」にて開催する。開催方法、出場年齢、種目等は前回大会同様とする。変更点は「全日本選手権」への出場権が昨年の 2 枠より 3 枠に拡大されたことである。

4. 世界新体操クラブ選手権について

21 年度「世界新体操選手権」を三重で開催したため、休止していた「世界新体操クラブ選手権」を 22 年度は再開する。日時は 10 月 8 日から 10 日、場所は東京体育館。

5. 第 11 回日本新体操祭について

21 年度「スポーツ健康フェスタ東京」と同時開催した「日本新体操」だが、22 年度は「世界新体操クラブ選手権」が再開されるため、平成 20 年度同様に「第 11 回新体操祭」を「世界新体操クラブ選手権」と同時開催する。日程は 10 月 9 日。場所は東京体育館。21 年度 60 チームにしていた参加制限数だが、同日に「世界クラブ選手権」が開催される関係上、20 年度同様 40 チームに参加制限数を変更する。

6. 第 13 回全日本新体操チャイルド選手権・第 10 回全日本新体操キッズコンテストについて

「第 13 回チャイルド選手権」「第 10 回キッズコンテスト」を 2011 年 2 月 25 日から 27 日にかけて「東京体育館」で開催する。開催方法は第 12 回大会同様とする。

第 12 回大会の反省と「新体操ルール」の変更により、チャイルド選手権特別ルールを変更する予定である。変更したルールについては後日案内する。

7. 平成 22 年度指導者育成セミナーについて

「審判セミナー」を各大会前に行い計 3 回、「指導者育成セミナー」を国内計 10 回、海外計 1 回を予定している。開催方法は平成 21 年度同様を予定している。

「指導者育成セミナー」では講師を国際体操連盟技術副委員長のナタリア・クズミナさんをお願いしているが、クズミナさんが世界各地に行くことが多いため、やむを得ず、講師を変更したり、日程を変更するなど、セミナーを予定通り開催できないこともあることを了承いただきたい。

以上の説明の後、議長は質疑、報告等を求めたが発言は無かった。

以上の後、第 1 号議案「平成 22 年度・事業計画」について原案通り可決承認された。

第2号議案 平成21年度・収支予算について（定款第29,38条関連事項）

議長は説明者として荒井隆専務理事を指名し、荒井専務理事は下記内容の説明を行った。現在「公益法人制度改革」が進められており、財務諸表も新方式で説明していく。説明は平成21年度予算と差異の大きいところを説明していく。

1. 世界新体操クラブ選手権収入について

平成21年度は「世界選手権」への協力という形をとったため、収入を1億1500万円と計上した。しかし、今年は「世界クラブ選手権」の単独開催のため、スポンサー収入を20年度の前回開催時を想定し1億7000万円計上した。

2. 事業活動収入について

「世界クラブ選手権」以外についてはほぼ昨年度同様の計上を行い、事業活動収入は2億3241万を計上した。

3. 日本新体操祭支出について

昨年「日本新体操祭」は「スポーツ健康フェスタ東京」と同時開催した。そのため、体育館使用料など負担したため、260万円の支出計上を行った。しかし、度々説明があがっているように「世界クラブ選手権」と同時開催し、体育館使用料が軽減されることから、20年度開催時の実績など考慮し、21年度比100万円減の160万円を支出計上した。

4. 世界新体操クラブ選手権支出について

22年度は単独開催のため、選手団の渡航費や、宿泊費が費用の計上により、20年度開催時の経費を考慮し、21年度比5700万円増の1億5700万を支出計上している。

5. 団体選手権支出について

「団体選手権」では、競技日程が延びることが予想されるのと、21年度の実績などを考慮し、前年度比80万円増の550万円の支出を見込んでいる。

6. 支出合計について

その他支出については前年度同様を見込み、事業費支出合計2億272万円。事業活動収支差額-541万円、予備費100万円を計上し、当期収支差額-641万円とし、前期繰越収支差額1685万7648円を加え、次期繰越収支差額を1044万7648万とさせていただいた。

以上の説明の後、議長は質疑、報告等を求めたが発言は無かった。

以上の後、第2号議案「平成22年度・収支予算」について原案のとおり可決承認された。

第3号議案「その他」について

議長は議場にその他議案の提出を諮ったが提出されなかった。

平成22年3月20日

社団法人 日本新体操連盟 平成21年度第2回総会

議長 二木 英徳

議事録署名人 福本 隆

同 荒井 隆